

この原稿が出るときには、もう、冬も真っ盛りになっていて、外は雪景色になっているところが多いと思います。昨年は、記録的な少雪と1回の集中豪雪が特徴の冬となりましたが、今年はどうなるでしょうか。今回は、過去の大雪の記録を振り返ってみましょう。

上越市の高田は町の中にめぐらされている「雁木」が社会科の教科書に載るように、有名な雪国の一つです。その高田でこれまでで最も多い積雪深は、昭和20年の377cmです。その次が昭和2年の375cmです。この昭和2年の大雪については、高田新聞社から、「大雪譜」（高橋義鶯編）（図1）という記録が出されています。その中には貴重な数々の記録が残っているのですが、大変な状況を挿話として残してあります。

「3月下旬に至るも積雪が多く、糞尿のくみ取り不可能にて高田市両替町では儀明川べりに一丈余りの雪穴を掘り、黄金水を投棄」

「御殿山火葬場が雪で倒潰し、火葬中の佛さん

が重傷を負う。遺族が泣く泣く掘り出して改めて火葬した。火葬場の復旧が深雪で当分不可能なので狼谷火葬場を開く。葬式も命がけだ。大雪中は死ぬな死ぬな。」

「高田市の金物屋にある除雪用のシャベルは売り切れた。市民すら困っているのに各町村からも買いに来る。この時長野市では「昔越後の謙信公は信州に塩を送ってくれた。今やその恩返しをする時が来た」とシャベル6千丁、馬鈴薯1千貫、大根1千貫を高田市に送り、その上人夫72人が数日働いてくれた。信州人の義理堅いのと情深いのは、高田市民をホロリとさせた」

昭和2年の大雪では上越地方だけでも90人以上の死者行方不明者を出しています。特に、昭和2年2月5日～11日にかけては、大雪が続き、9日は高田測候所で1日の降雪量が1.5mを超え、脇野田駅では、2mを超える雪が降った記録が残っています。その時期には集落、鉄道を中心に雪崩災害も多発していました。昭和2年と20年の積雪深の変化を高田測候所でまとめていますが（図2）、昭和2年の2月上旬の雪の降り方は尋常ではないものです。このような状況が今後ないとは言えません。このような記録を残し過去の教訓として後世に伝えていくことも大事なことと考えます。



図1 「昭和大雪譜（高橋義鶯編）」

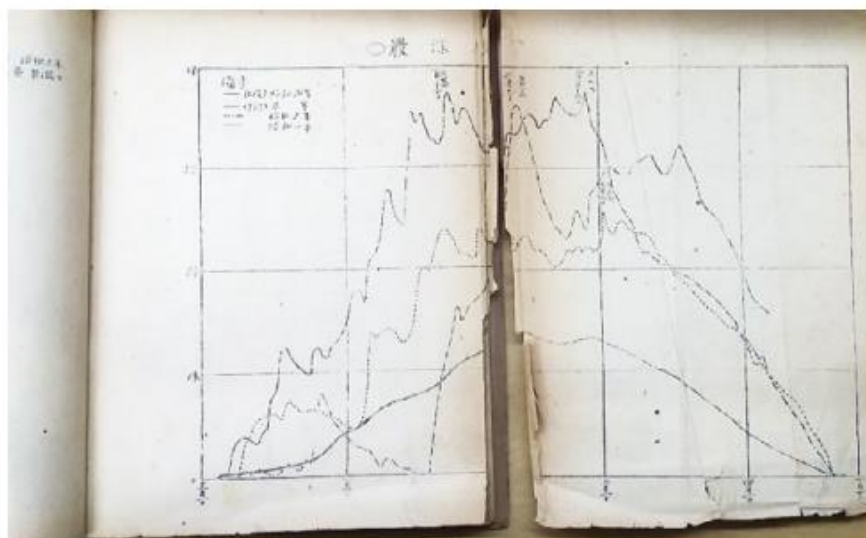


図2 「昭和20年高田の豪雪の記録（高田測候所）」より引用